

海域区分図の活用について

令和6年8月

農林水産省農村振興局

底質特性別海域区分図の活用(見える化)

- 九州農政局では、有明沿岸4県が実施した既往底質調査の結果をもとに、含泥率などの底質特性によるクラスター分析を行い、平成20年度(2008年)から底質特性別海域区分図を作成。
- これまで約15年分の区分図を作成し、今後の底質改善調査の検討に活用。

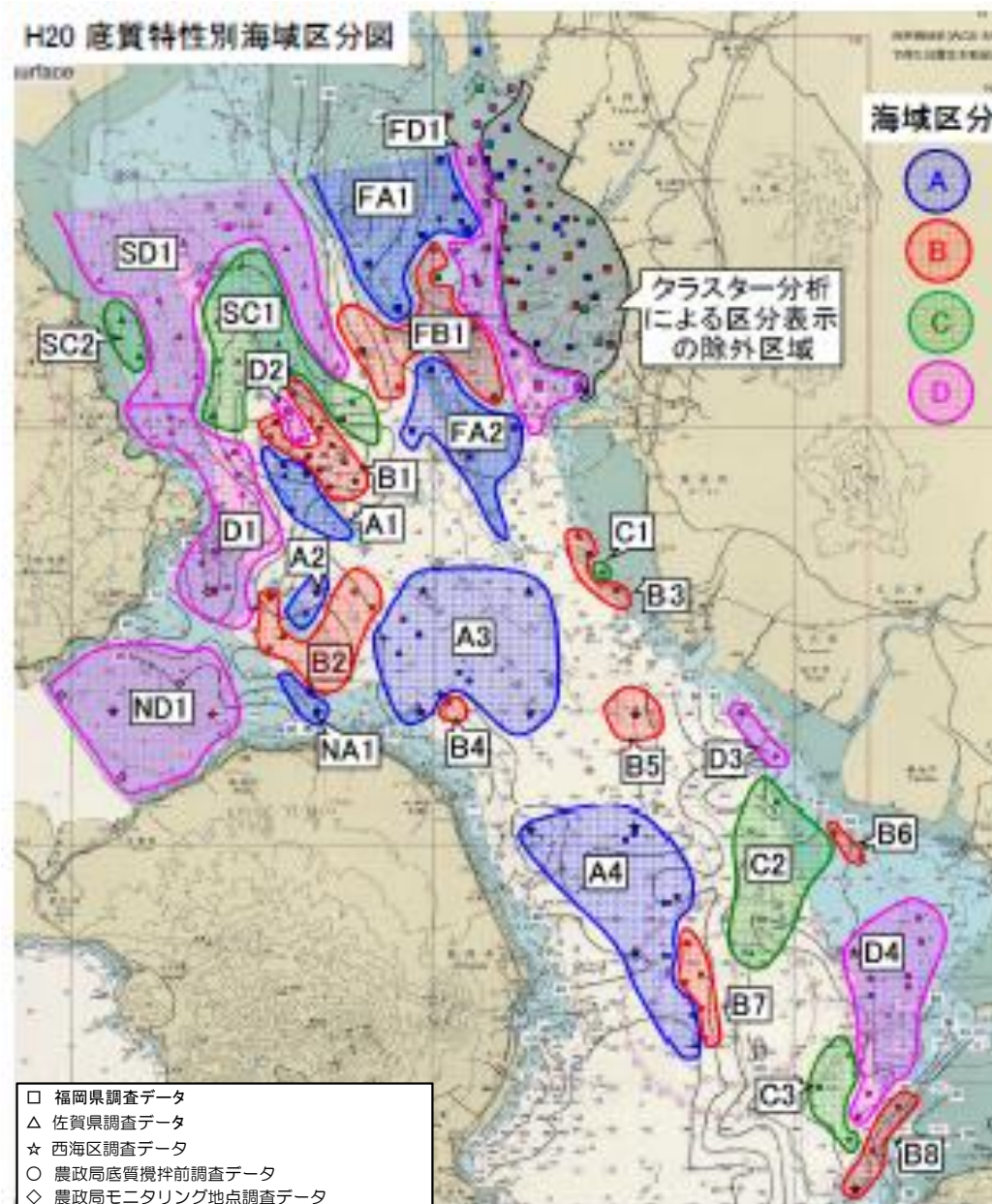
(1)底質特性別海域区分図の作成

- 試料はグラブ式採泥器(採泥面積0.15m×0.15m、重量10kg)により海底表層から採取。
- クラスター分析では、108調査地点における8項目の底質特性(中央粒径、含泥率、含水率、全硫化物、強熱減量、COD、全窒素、全リン)を用いて分析し、以下の4つに区分。

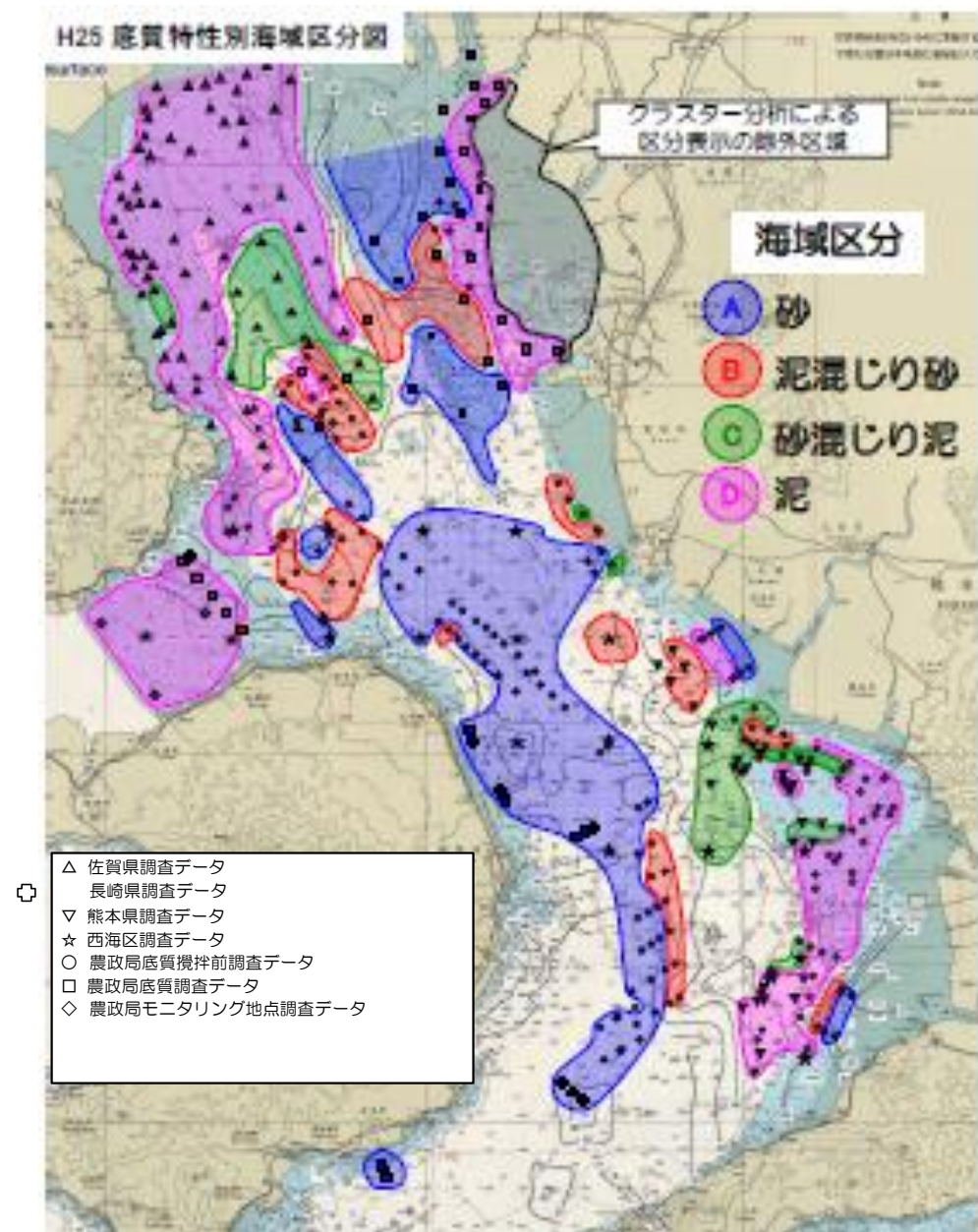
A	砂	有機物量が少なく嫌気化していない。 (砂分が80~90%程度)
B	泥混じり砂	有機物量はAよりも多いが、富栄養化は問題ない。 (砂分が60~70%程度)
C	砂混じり泥	有機物量がさらに増加して富栄養化が進んでいる。 (泥分が70~80%程度)
D	泥	富栄養化と嫌気化により底質環境が悪化している。 (泥分が80~90%程度)

引用：有明海・八代回答総合調査評価委員会中間とりまとめ(P.40)

底質特性別海域区分図①(平成20年度及び平成25年度)

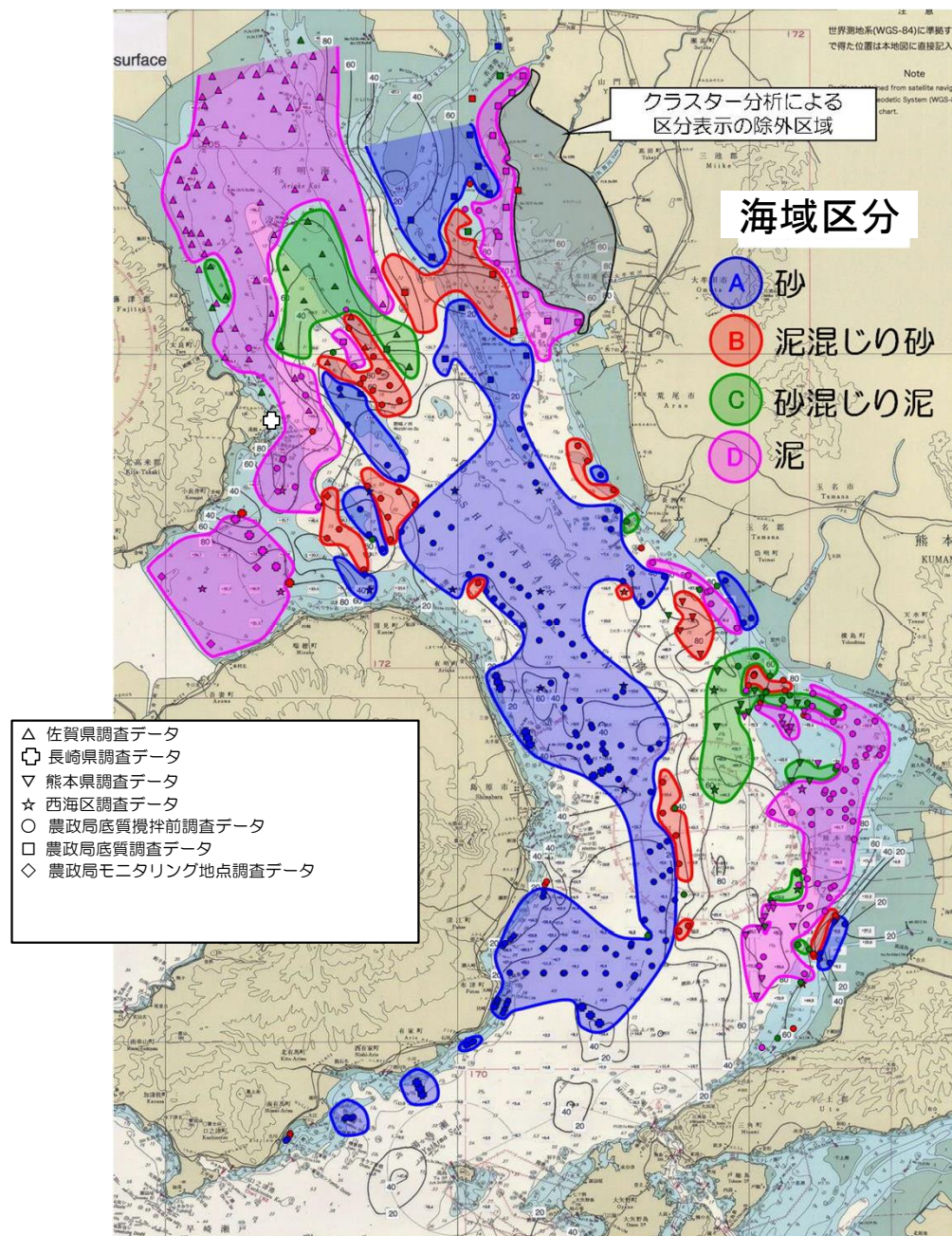


平成20年度 海域区分図

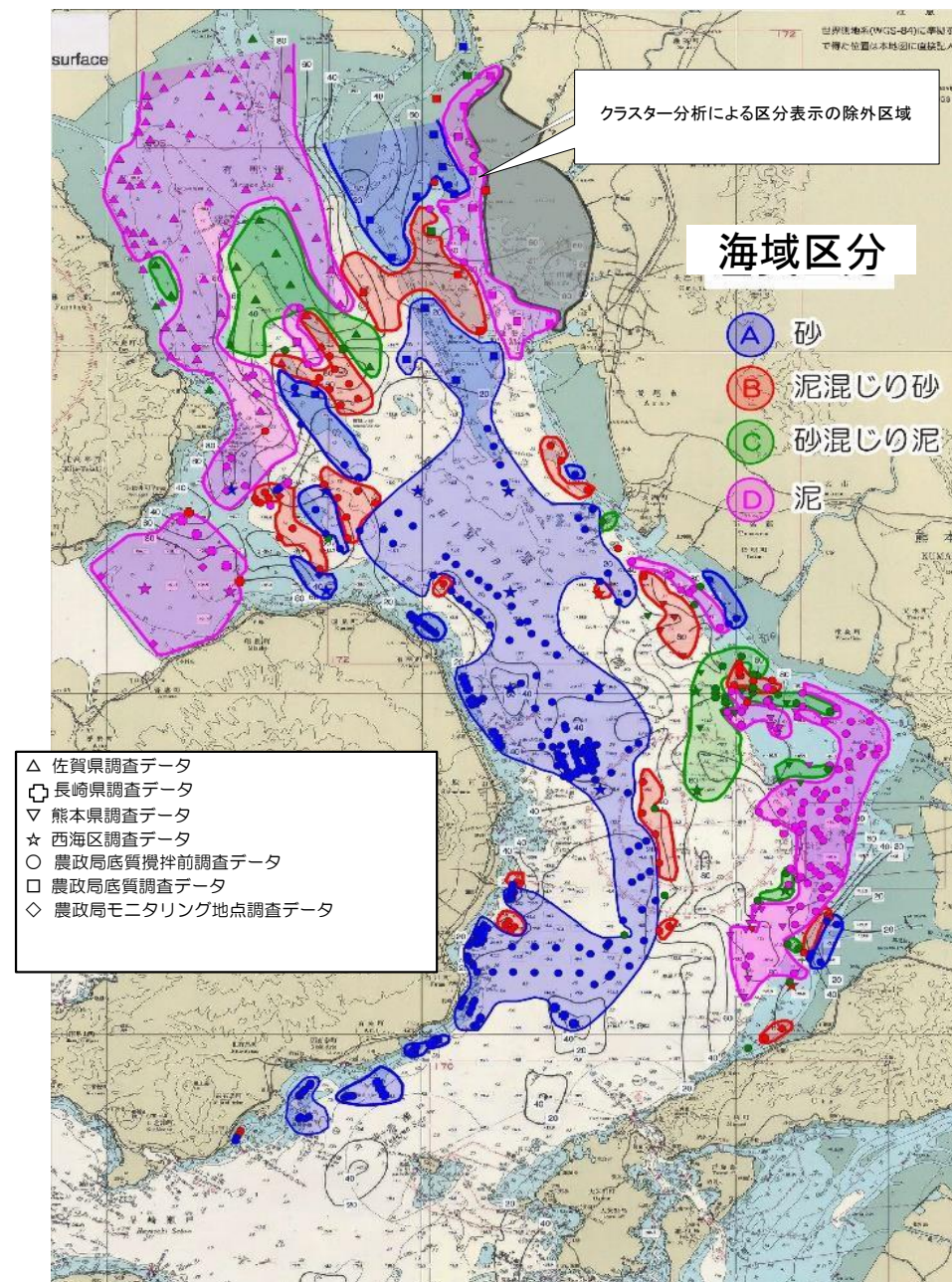


平成25年度 海域区分図

底質特性別海域区分図②(令和元年度及び令和5年度)



令和元年度 海域区分図



令和5年度 海域区分図

海域区分図の活用①(データベースによる見える化)

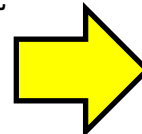
- 令和6年度より4県協調の取組としてExcelによる共通フォーマットをファイルを各県に配布し、九州農政局で位置図を作成。
- 作成した位置図や共通フォーマットを活用し、見える化により効果的・効率的な取組方法を検討。

知見の更なる活用

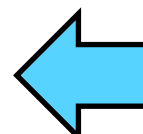
○ 調査・実証結果等



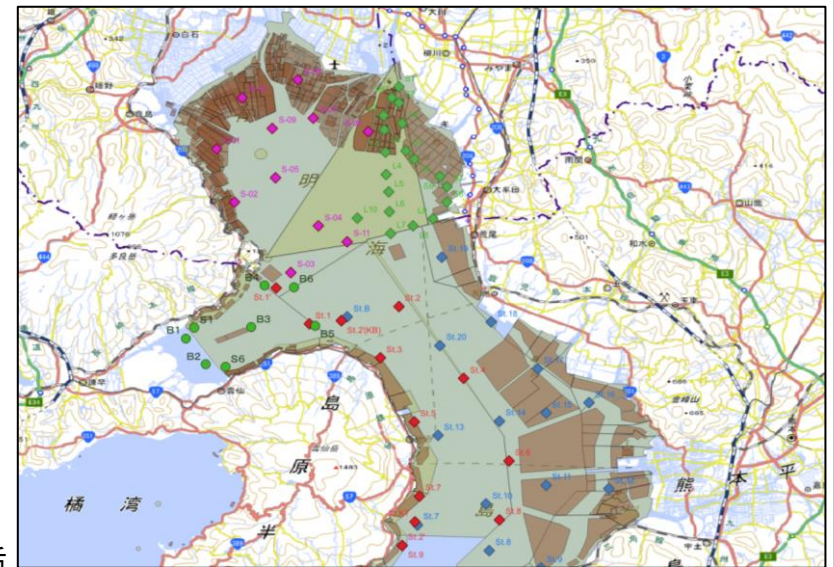
取組結果をデータベースに集約・可視化



集約したデータや知見を、効果的・効率的な取組に活用



○ データベースによる集約(位置図を作成)

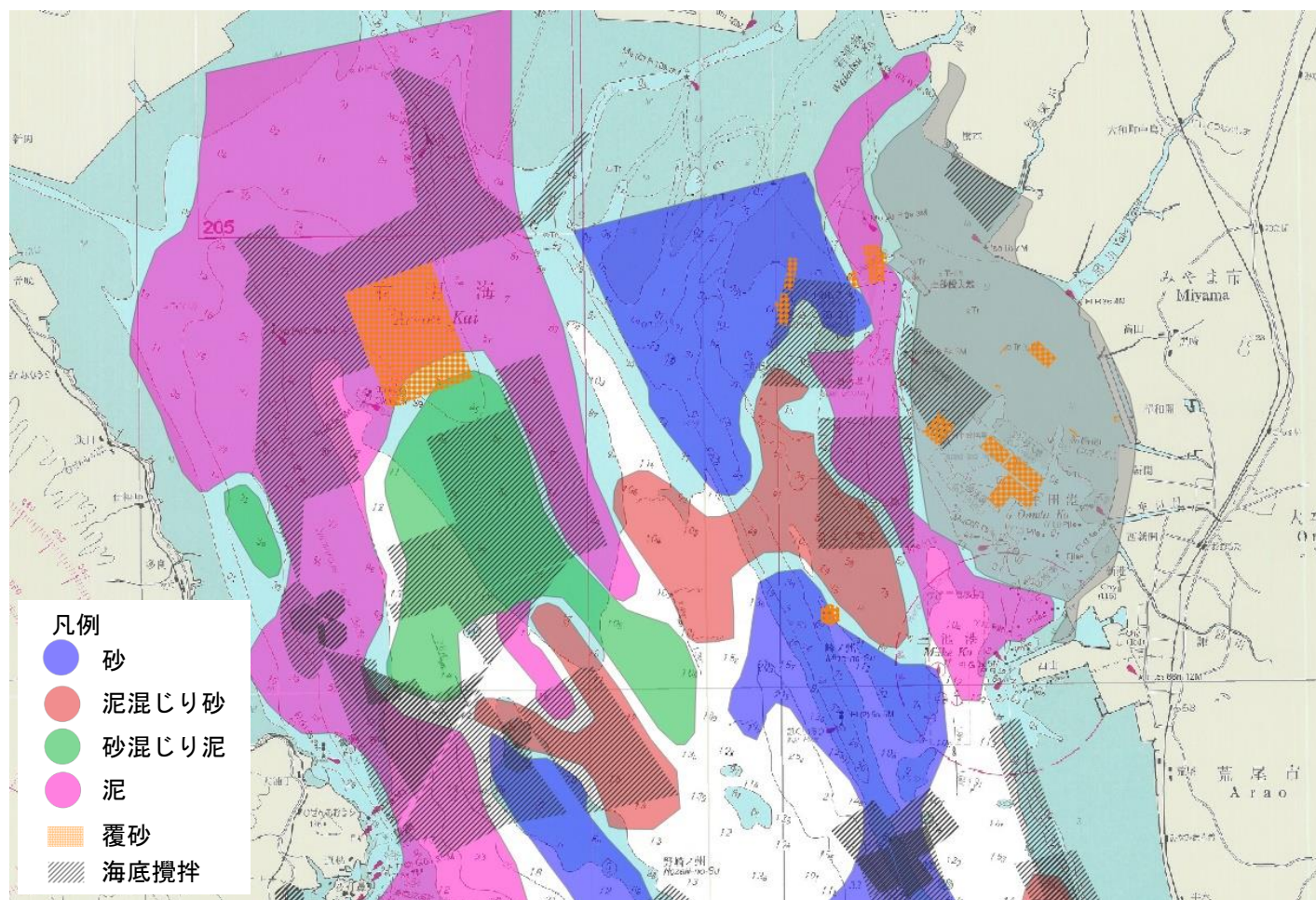


(イメージ: Qgisより)

※ 第36回有明海漁場環境改善連絡協議会(令和6年3月26日)資料3を一部修正

海域区分図の活用②(底質改善対策)

- 今後、底質改善対策を行うにあたり、過年度の実績や海域区分を基に底質特性にあった工法選定や取組場所の検討等、より効果的・効率的な取組となるよう関係各県へ共有したい。



イメージ図